

1. 実況上の着目点

- ① 19日までの寒気で生じた下層雲が日本海や東シナ海にあるが、大陸の高気圧に緩やかに覆われ晴れている所が多い。北日本では次の気圧の谷の接近で日本海側で南西の風が強まってきており、上記の下層雲がかかっている所がある。
- ② 大陸の高気圧の張り出しの周辺域の南西諸島ではやや強い風が続くうねりを伴う高波の所がある。
- ③ 関東沖の気圧の谷の雲域で、上層トラフにより低気圧が発生し東北東進。局地的に強い風を解析。

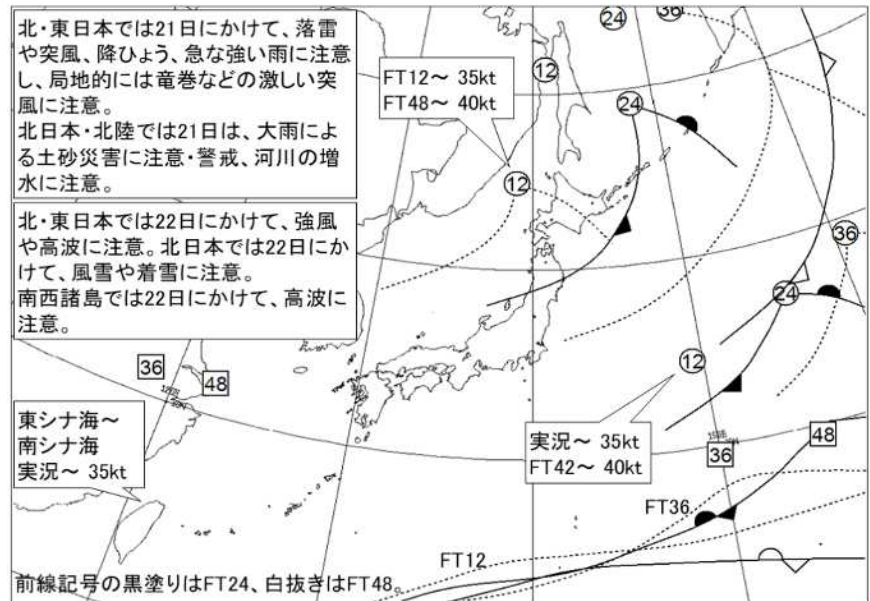
2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① アムール川下流から沿海州にかけて深まるトラフ前面の500hPa5340m付近の強風軸に対応し、20日夜には日本海北部で低気圧が発生し、21日には発達しながらオホーツク海を北東へ進む。寒冷前線が21日にかけて北日本を中心に通過する。この前線の後ろをやや遅れて上層寒気が流れ込み、500hPa-27～-36℃のサーマルトラフが21日夜に北日本を通過。下層寒気は850hPa-6℃以下が21日未明から北日本（東北北部以北）に流れ込む。東・西日本は日本海側中心に850hPa0～-3℃が流れ込む程度。
- ② 2項①の寒冷前線付近では下層暖湿気、その後は上空の寒気の影響で、北日本を中心に大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い強い雨の降る所がある。北日本と北陸地方では21日は、土砂災害に注意・警戒、河川の増水に注意。19日までの大雨により通常よりも少ない雨量で土砂災害の危険度が高まりやすい。また、北・東日本では日本海側を中心に21日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。17～18日より風が弱く、不安定度は弱めだが、東日本では下層寒気の南下が遅く上層寒気の到達で不安定度が強まりやすい地域がある。
- ③ 1項②の高気圧の張り出しや低気圧・前線の接近・通過に伴い気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。また、21日の前線通過後は、北日本を中心に冬型の気圧配置となり、北日本を中心に風が強まり降雪の所がある。北・東日本では22日にかけて強風や高波に注意し、北日本では22日にかけて風雪や着雪にも注意。南西諸島では、22日にかけてうねりを伴う高波に注意。
- ④ 2項①のトラフ通過後の22日は、華中から東日本にかけての帯状の高気圧に覆われるが、北日本と南西諸島はやや強い風が続き、高波が長引く要因となる。500hPa5日平均高度予想図では、日本付近は正偏差域に入り、数日間は寒気の流れ込みはおさまる（週間予報支援図参照）。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】**
- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級)はない。
 - ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・伊豆諸島・小笠原・北陸・近畿・沖縄3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北陸地方で注意報級の所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図